ベッド関連

高齢者には布団よりベッドの方が、起きたり座ったりする動作がラクです。

ベッドでの生活とリハビリテーション

寝室は自立した生活を送れる空間として考えることが大切です。高齢者には布団よりベッドの方が、起きたり座ったりする動作がラクです。特に介護ベッドは背上げ、膝上げ、高さ調節ができ、テーブルや介助バーなど様々なオプションがあります。

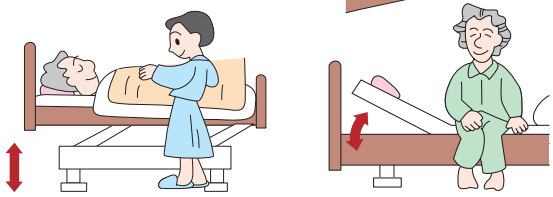
介護ベッドの機能

1モーター 背上げ又は高さ調節機能付ベッド

ベッドの背が上がります（高さ調節ができます）。筋力の弱った方でも起き上がりがラクで、読書や食事に便利です。介助者には、高齢者の立ち上がり等の介護負担を軽減します。

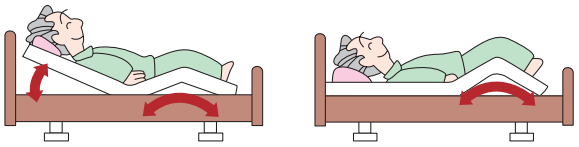
2モーター 背上げ・高さ調節機能付ベッド

ベッドの背が上がり、高さを調節できます。足腰がちょっと弱った方はベッドに腰掛けて、かかとがつくぐらいの高さに調節すると立ち上がりやすくなります。腰をかがめず介護する姿勢を保てます。



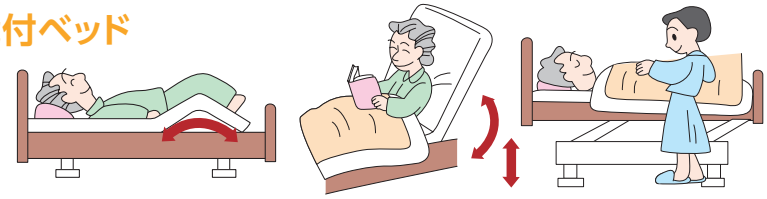
2モーター 背上げ・膝上げ機能付ベッド

ベッドの背と膝が上がります。膝上げは高齢者の脚のむくみや疲労回復に効果的。排泄介護等がスムーズに運びます。※背上げ、膝上げが別々に調節できるベッドをギャッチベッドといいます。（イラストは背膝連動ギャッチベッドです）

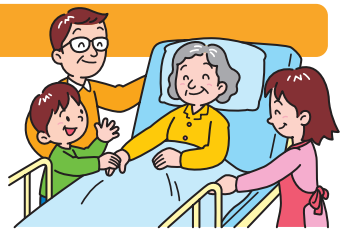


3モーター 背上げ・膝上げ・高さ調節機能付ベッド

ベッドの背・膝が上がり、高さを調節できます。各機能を手元スイッチのワンタッチ操作で自由に使い分けることができます。高齢者には自立への手助けとなり、介助者も手動操作による肉体的負担を軽減します。



介護ベッドを選ぶ時のポイント



ベッド選びで大切なことは、ベッドの上でラクに身体を起こせたり、ベッドに腰かけてラクな姿勢が保てること。また、お世話する人がラクな姿勢で介護ができることも考えて選びましょう。

症 状
ハンディを負っているところを確認し、自立を促進する補助具と考えて下さい。

体 型①
体が曲がっているか、マヒがあるか、長さは左右対称かをチェックします。（ベッドの位置はマヒがある側を壁にし、利き腕や脚を動かしやすいようにします）

身 長
介護用マットレスは191㎝で統一されているため、175㎝以上の人は足先が出ます。（14㎝延長の補助フレームの取付可能なベッドもあります）

進行性か慢性か?
症状の変化に対応できるものを選びましょう。

年 齢
75歳を過ぎた高齢者は何らかの障害が出てくるものと考えて下さい。

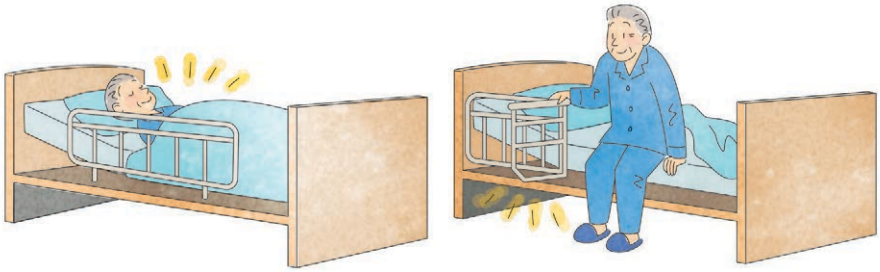
体 型②
身長とのバランスで痩せているか、太っているかをチェックしましょう。

ADLレベル
現時点での残存能力を把握しておきましょう。（日常生活自立度）

床に直敷きの布団より介護ベッドをおすすめします

- 高さ調整や背上げ機能のあるタイプなら起き上がり、立ち上がりが楽になります。
- 視野が広がるのでコミュニケーションがとりやすくなります。
- 車椅子などへの乗り移りがしやすくなります。
- 食事や寝返り、着替えといった生活介助の負担が軽減します。

サイドレールとベッド用グリップの役割



サイドレール
布団のずれや就寝時の転落防止に

ベッド用グリップ
立ち上がりの時つかまって体を支える